

令和3年度 事業報告

施設名 幼保連携型認定こども園 同朋にこにこ園

| 事業年度 | 定員(人) | | | 児童数(年平均) | | | 充足率(%) | | | 延長保育利用人数(延人数) | | | | 園庭開放他 |
|--------|-------|------|------|----------|------|-----|--------|------|------|---------------|-------|---------|-------|-------|
| | 1号 | 2,3号 | 15人 | 1号 | 2,3号 | 20人 | 1号 | 2,3号 | 130% | 30分延長 | 1時間延長 | 1.5時間延長 | 2時間延長 | (延人数) |
| 平成29年度 | 203人 | 15人 | 188人 | 194人 | 20人 | 96% | 130% | 92% | 187人 | 74人 | 4人 | 0人 | 163人 | |
| 平成30年度 | 203人 | 15人 | 188人 | 193人 | 18人 | 95% | 116% | 93% | 144人 | 56人 | 36人 | | 131人 | |
| 令和元年度 | 203人 | 15人 | 188人 | 196人 | 16人 | 97% | 106% | 95% | 93人 | 59人 | 37人 | | 89人 | |
| 令和2年度 | 203人 | 15人 | 188人 | 195人 | 13人 | 96% | 87% | 97% | 80人 | 55人 | 22人 | | 109人 | |
| 令和3年度 | 203人 | 15人 | 188人 | 196人 | 17人 | 96% | 113% | 95% | 106人 | 34人 | 22人 | | 44人 | |

| 方基法 針本人 | 重点目標 | 計画(P) | 実践内容(D) | 評価(C) | 改善(A) |
|------------|---------------------------------|---|---|---|---|
| 人権の尊重 | ・一人一人を認め大切にされた保育を行なう | ・一人一人の人権を尊重し、性別や国籍、障がいの有無によって区別することのない保育を行う ・虐待防止と早期発見に努める ・自分、友だち、物を大切に出来る気持ちを育てる | ・外部講師による権利擁護研修(4/30・5/11) ・子どもが自己肯定感が持てる言葉がけの園内研修(4/20) ・虐待防止マニュアルの見直し(4/15) ・職員の心得確認(職員会議毎) | ・権利擁護研修に参加し保育の見直しをして実践に繋げることができた ・園内研修にて、自身の行動を見直すことで意識が変わり互いに気づいたことを伝えられるようになった ・虐待防止マニュアルを見直し日常の保育で虐待チェックを行う | ・人権擁護に関する研修を続けて行う事で職員の意識を高められるようにする ・子どもの自己肯定感を育て高められるよう園内研修を行う ・日々の虐待チェックを行いながら、学期毎にはチェックリストを用いた虐待チェックを行い虐待の予防、早期発見に努める |
| サービスの向上 | ・保護者支援 ・保育内容の充実 | ・園長、主幹保育教諭は保護者に寄り添い、些細な悩みにも耳を傾け、安心して子育てができるようにする ・発達過程を理解することで保育の内容を充実させる ・園内研修を多く取り入れ職員のスキルアップを図る | ・アンケートを行う(3月) ・ご意見箱を設置する(常時) ・年齢に応じた手作り玩具を作成する(年2回) ・園内研修を取り入れた(4月、5月、6月、12月) | ・アンケートの回収率は155家庭中132家庭の回収で85%であった ・全体的には満足しているとの意見が多かったが、自由記述欄に少人数ではあるが意見や要望があった ・発達過程を意識して手作り玩具を作ることで保育内容の充実に繋がった ・園内研修を取り入れ職員のスキルアップを図ることが出来た | ・アンケートの回収率を上げ、個人の意見には職員間で話し合い検討しより良い園作りに取り組む ・手作り玩具の作成を継続し、今後は遊びだけでなく環境の見直しにも繋がられるようにする ・新型コロナウイルス感染症予防の為、AEDの研修が出来ていないので次年度は実施する |
| 地域との共生 | ・子育て支援 ・学校・関係機関 ・近隣とのかかわり | ・地域の親子を対象にしたにこにこ広場や園庭開放を行う ・一時保育の受け入れを行う ・小学校、中学校との交流を行う ・実習生、ボランティアの受け入れ ・区役所、消防署、警察署との連携 ・青少協、いぶき明生支援学校と一緒に公園を清掃 ・高齢者施設との交流 | ・園庭開放を行う ・トライやる受け入れ(11月6名) ・ワークキャンプの受け入れ(7月1名、8月1名) ・実習生の受け入れ 常盤大学 8月4名、 関西国際大学 8月1名 神戸女子大学 8月・2月・3月各1名 ・5歳児が井吹台西公園清掃(3回)(青少協) | ・園庭開放は行っていたが、地域の親子を対象としたにこにこ広場は新型コロナウイルス感染症予防のため開催が出来なかった ・キャリアトレーニングは実施できなかったが、実習生の受け入れやトライやるワークキャンプは受け入れを行った ・新型コロナウイルス感染症予防のためいぶき明生支援学校との清掃活動は出来なかったが青少協との清掃活動は実施できた | ・まん延防止措置期間などは園庭開放を実施しなかった。これからは状況に応じて実施できるようにする ・新型コロナウイルス感染症の予防を考慮しながら状況に応じて小学校、中学校、支援学校との引継ぎや連携が出来るようにする |
| 人材育成 | ・職員の質の向上 ・人材確保 | ・危機管理意識を高める ・スキルアップのためキャリアアップ研修の受講 ・養成校との交流や実習生に働きかけ人材確保に努める | ・ヒヤリハット報告書の強化(職員一人につき月1枚) ・新任職員の担当職員を決める(指導保育教諭) ・養成校を訪問(常盤大学、神戸女子大学、元町こども専門学校) | ・ヒヤリハットの収集が183件であった ・1年目の職員は担当保育教諭を通して連携を取ることが出来た ・養成校の訪問に卒業生が行くことで交流を持つことができた | ・事故の件数が減るようヒヤリハットの内容を見直し、一人一人が意識して書けるようにする ・積極的に研修に参加することで職員の質の向上に努める ・実習生の受け入れの際、積極的に声をかけ、アルバイトや就職に繋げていく |